

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
26-155	高等学校	外国語	コミュニケーション英語 I	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
002	コI330	PROMINENCE English Communication I		

1. 編修の趣旨及び留意点

- 「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能が有機的に統合された言語活動を行うことができるようにする。
- 生徒自身がメッセージの能動的な受信者であると同時に、主体的な発信者となるような言語活動を英語で行うことができるようにする。
- 英語を通じてコミュニケーション能力が自然に身につけられるよう学習の流れを紙面化し、多様な学習活動を通じて生徒に英語学習に対する自信を与えることによって、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度が養えるようにする。

2. 編修の基本方針

基本方針

1

「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能が有機的に統合された言語活動を行うことができるようにする。

「聞く」「話す」「読む」「書く」言語活動を有機的に統合させるため、「読んだり聞いたりした内容」について「書いたり話し合ったり」する言語活動を設定した。すなわち、「各Lessonの本文で読んだり、Warm-upやCommunication Activity (Listening)で聞いたりした内容」について、「Communication Activity (Retelling & Speaking)や各Unit末のCommunication Explorer (In Depth!)で話し合ったり書いたり」できるようにした。また、そのためのステップとしてComprehension, Exercises A~D, Listening Explorerを設けた。

基本方針

2

生徒自身がメッセージの能動的な受信者であると同時に、主体的な発信者となるような言語活動を英語で行うことができるようにする。

「読む」「聞く」言語活動を、生徒の一方的な受容活動としてだけでなく、「題材の原著者ならびに本書編集委員会」のメッセージを生徒が主体的に受け止め、さらに生徒自身の考えを発信するという能動的活動としてとらえた。この目的が達成できるよう、生徒に伝えるべき豊かなメッセージを備え、かつ生徒自らがメッセージの発信者となるようなインパクトを備えた題材を、生徒に親しみやすい日常的话题の中から厳選して掲載した。

基本方針

3

英語を通じてコミュニケーション能力が自然に身につけられるよう学習の流れを紙面化し、多様な学習活動を通じて生徒に英語学習に取り組む自信を与えることによって、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度が養えるようにする。

英語を通じてコミュニケーション能力を養うことのできる指導の流れを具体化するため、各項目の構成を工夫した。特に、Lessonを構成する学習項目、Warm Up, 本文, Comprehension, Communication Activity, Grammar, Exercises, Listening Explorer, Communication Explorerは、この目標を達成するための流れを配慮して配列した。各項目には多種多様なコミュニケーションタスクが盛り込まれており、これらの作業を通して授業への参加意識を培いながら学習上の成就感を得させることで、体感的に英語学習のコツが身につくよう工夫した。

3. 対照表

図書の内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
Lesson / Reading	① 言語の使用場面や働きを踏まえたコミュニケーション活動を通して、文化によって異なる発想や考え方、文化を越えて共通する発想や考え方に触れさせる。(第1号)	Lesson 1
	② 同じ地球に生を営む人間と動物との間の種の枠を超えた共通性を探求することで、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培う。(第2号)	Lesson 2
	③ ポリネシアの文化や南米パラグアイの日常生活を知ることによって、自らの言語や文化を見つめ直し、異文化を理解しようとする態度を養成するきっかけを与える。(第1号)	Lesson 3 Lesson 4
	④ 電話がまだ珍しかった時代、語り手と親切な電話交換手とのふとした出会いに端を発する心の交流の物語を通して、豊かな情操を涵養する。(第1号)	Optional Reading 1
	⑤ 文法・発音などの学習を通して、言語の構造に対する理解を深めさせる。(第1号)	全般
	⑥ 確固たる信念に基づいて行動し、多くの人々の協力を得ながらひとつの目標を成し遂げたグットマン医師とジェイン・ジェイコブズの事績を通して、自主・自律の精神、生活の場を大切にすることを養う。(第2号)	Lesson 9 Lesson 10
	⑦ 4技能を総合的に活用する自己表現活動を通して、他人の価値観や意見を尊重しながら、自分の考えに基づいて積極的にコミュニケーションできる態度を養う。(第2号)	全般
	⑧ 自ら考え、自ら学んでいくのに役立つ知識を提供する。(第2号)	全般
	⑨ 自らの戦争体験から生きる意味を問い続けたやなせたかし氏の絵本「あんばんまん」を取り上げ、真の正義とは何かを考えさせる。(第3号)	Lesson 6
	⑩ パラリンピックを創設したグットマン医師の生涯と功績をたどり、スポーツを通じた社会参画について考えさせる。(第3号)	Lesson 9
	⑪ 公共の公園を守るために闘ったニューヨークの一市民であり主婦であったジェイン・ジェイコブズの市民運動を通じて、大都市とコミュニティのあり方や社会形成について考えさせる。(第3号)	Lesson 10
	⑫ 地球規模で物事を考えることができる知性と、感じるができる感性を育てるための第一歩として、地球を俯瞰して捉える視点を獲得できる題材を巻頭に置いた。(第4号)	Lesson 1
	⑬ 感情という観点から人間と動物の共通性を探り、生命を尊び自然を大切にすることを養う。(第4号)	Lesson 2
	⑭ 南米パラグアイで活動している「リサイクル・オーケストラ」。ゴミから作られた楽器を奏でることで世界に向かって美しいハーモニーを生み出す子供たちの姿を通して、環境問題について考えさせる。(第4号)	Lesson 4
	⑮ 本物の木が珍しくなってしまった近未来を描くSF物語を通して、環境保全について考えさせる。現在の関係性だけに目を奪われるのではなく、未来の世代へ受け継いでいくべき大切なものは何かという問題意識と想像力を育む。(第4号)	Optional Reading 2
	⑯ 19世紀のヨーロッパ美術に大きな影響を与えた浮世絵の中でも、特に葛飾北斎のものを取り上げ、日本の伝統文化を新たな視点で見つめ直すきっかけを与える。(第5号)	Lesson 5
	⑰ 折り紙にヒントを得て考案されたミウラ折りを取り上げ、それがいかに広い分野に応用されているかを知ることによって、日本の伝統文化について考えるための視点を提供する。(第5号)	Lesson 8
コラム類	① Listening Explorer では、英語の基本的な文構造や発音などの学習を通して、日本語とは異なる言語の特色に気づき、理解しようとする態度を養う。(第1号)	① Listening Explorer 1～5
	② Communication Explorer では、実践的な言語の使用場面を踏まえたコミュニケーション活動を行い、実生活に活かすことができる力を養う。(第2号)	② Communication Explorer 1～5

4. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

観点	留意点	具体例
①教育基本法の遵守	上記「3.対照表」に明記したとおり，教育基本法の遵守を踏まえ，編修の基本方針を設定した。	全般
②学習指導要領の遵守	①学習指導要領を踏まえて各Unitのテーマを設定した。 ②生徒が自ら英語で発信する活動を豊富に取り上げ，コミュニケーション能力の涵養を目指した。	全般
③内容・配列・分量	①4技能の活用を有機的・段階的に行うことができるよう内容のレベルに傾斜をつけて題材を選択・配列した。 ②各Lessonは，写真資料などからの導入，理解，演習，整理，発展の順に編集されており，効率的かつ効果的に学習できるように配慮した。	全般
④評価（CAN-DO）	①各Unitの学習目標を目次に明示した。 ②Communication ExplorerのIn Depth!において上記①で示された目標の達成度を図るためのチェックポイントを配置した。	①目次 ②Communication Explorer 1～5
⑤英語で授業を行うための配慮	①英語による授業を促進し，これを実現するために，Grammar関連事項とListening Explorer，Communication Explorerを除いて，指示はすべて英語によることとした。 ②原則として『アドバンストフェイバリット英和辞典』（東京書籍）に準拠し，アメリカの標準的な発音で表記した。発音されることもあり，発音されないこともある音はイタリック体で表記した。	全般
⑥中学校との関連	生徒への学習負担を鑑み，Lesson 1～2では中学既習文法事項のみを取り上げ，Lesson 3～4では中学既習文法と高校学習文法を組み合わせる。これにより，無理なく既習事項の復習を行うことができる。	Lesson 1～ Lesson 4
⑦伝統・文化の取り上げ方	日本の伝統・文化に関する話題を取り上げ，我が国の伝統・文化への意識を高め，日本の伝統文化への正しい認識を培い，日本を世界に紹介する意欲を育てる。	Lesson 5 Lesson 6
⑧自然科学の取り上げ方	折り紙にヒントを得て考案されたミウラ折りを取り上げ，それがいかに広い分野に応用されているかをみることで，日本の伝統文化について考えるための視点を提供する	Lesson 8
⑨家庭学習・自学自習への配慮	導入のWarm Upで行う2種類のリスニング活動のうち，1つのリスニングスクリプトを巻末に掲載した。	巻末
⑩文字・印刷・製本	①資料性の高い図版，読み易い活字を使用した。 ②製本は堅牢で，開きやすい様式とした。 ③図やグラフの色使いなど，色覚特性への配慮を含むユニバーサルデザインとした。	全般

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
26-155	高等学校	外国語	コミュニケーション英語 I	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
002	コI330	PROMINENCE English Communication I		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

1. 全体構成

5Unit 構成とし, 各 Unit のテーマを学習指導要領に従い, Unit 1「共に生きる」, Unit 2「異文化理解」, Unit 3「日本人と日本文化」, Unit 4「科学技術」, Unit 5「現代社会」とした。テーマに応じて, 各 Unit の目標を Unit 1「共生について学ぶことができる」, Unit 2「異国と日本の違いを発見できる」, Unit 3「日本や日本文化について紹介することができる」, Unit 4「日本の科学技術について紹介することができる」, Unit 5「生き方について話し合うことができる」と設定した。

2. Lesson

a. 扉ページの写真

本文の内容を想起させるような写真を配置し, 生徒の題材へのスキーマを活性化させることにより, 本文内容にスムーズに入っていけるよう配慮した。

b. Warm Up

各 Lesson の題材に関する導入部のリスニング。写真やイラストを見ながら, 指導者の判断により, モノログ型またはダイアログ型, 2 種類のリスニングから選択できるようにした。

c. 本文

本文には「内容の要点を示す語句や文, つながりを示す語句」を自然な文脈の中に盛り込んだ。話のまとまりごとに 4 パートに分割し, 授業の流れに応じて学習できるようにした。本文ノド側 5 行ごとに行番号をつけた。また, 脚注に示した「ターゲットとなる文構造・文法事項」の初出箇所を G-1, G-2 ... というように目印となる記号を付した。

d. 傍注

本文中の重要な熟語・連語表現などを取り上げ, 該当箇所の小口側に示した。

e. 脚注

「傍注で取り上げた熟語・連語表現などの例文」「ターゲットとなる文構造・文法事項と例文」「内容理解の設問(=Q)」「より深い内容理解の設問(=FQ)」を示した。例文は本文の話題と内容的に関連したものを基本とし, 言語材料の表す意味内容の理解と言語形式の定着を図るために役立つよう工夫した。また, Q や FQ を通して「読んだり聞いたりした内容について話し合う」活動を促すようにした。

f. Did You Know?

写真やイラストとともに, 本文の背景知識や発展内容をキャプションで示し, 本文内容の理解をより深め, 英語で言語活動を行う際の材料にもなるように工夫した。

3. Comprehension

「概要や要点をとらえたりする」言語活動を用意した。

A は「情報を表などにまとめる」設問を基本とした。これになじまない内容のレッスンについては, それぞれに適した内容理解の設問を用意した。

B はいくつかの選択肢から, 本文内容に合う文を選ぶ形式の問題とした。

C は本文の内容を要約する言語活動を用意した。「内容の要点を示す語句や文, つながりを示す語句などに注意しながら」書けるよう工夫した。

4. Communication Activity

Listening は本文の内容に関連する内容を聞き取る活動、Retelling & Speaking はその Lesson の内容、すなわち「本文で読んだり、Warm Up や上記の Listening などでも聞いた内容について「相手に伝える」「調べる」「話し合う」「意見を交換する」「整理して書く」といったコミュニケーション活動とした。Retelling については、生徒が活動に取り組みやすいよう本文中の写真と同じものを配置した。

5. Grammar

ターゲットとなる文構造・文法事項を例文とともに解説したが、文法については、コミュニケーションを支えるものであることを踏まえ、言語活動と効果的に関連付けて指導できるよう工夫した。言語材料が実際の場面でどのように使われるかを理解し、実際に活用することを重視するために、見出しには文法用語に加えて、その文構造・文法事項の表す機能を併記した。言語材料の分析や説明は必要最小限にとどめた。

6. Exercises

本文に出てきた文構造・文法事項、および熟語・連語表現などについての練習問題を設けた。

7. Listening Explorer

聞き取りのコツを、わかりやすく親しみやすい例を使って説明した。In Depth!は、そのコツの確認を行う場とした。

8. Communication Explorer

RetellingやPresentationにおけるコツを示した。In Depth!は、そのコツを実際に援用しながら、各Unitで学習した内容を英語で発信するための実践的課題を提示した。

9. Optional Reading

すべての生徒が学習することを前提としない選択的な教材と位置づけ、Lessonとは異なるタイプの読み物を掲載した。ここでは特に「説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。また、聞き手に伝わるように音読する」活動がしやすい題材を選んだ。

10. 付録

Word List および Phrase List では本文で扱った新出語および熟語・連語表現の初出箇所を示し、学習・指導上の便宜を図った。Listening Script は、Warm Up で用意した2種類のリスニングのうち、モノローグ型リスニングスクリプトのみを示した。

題材一覧

ユニット／ユニットテーマ	レッスン	題材
Unit 1 共に生きる	Lesson 1	We Are Together 地球を俯瞰する視点から、国際社会を生きるための「地球人」としての人間の在り方を考える。
	Lesson 2	Animal Emotions 動物に感情はあるか。人間と動物の共通点に迫り、共生のヒントを読み解く。
Unit 2 異文化理解	Lesson 3	One Ocean, One People ポリネシアの伝統航海術で海を渡った内野加奈子氏へのインタビュー。国際社会を生きる若者に向けて、航海から得られた自然からのメッセージを語る。
	Lesson 4	Landfill Harmonic 南米パラグアイのゴミ溜めから拾ったゴミで作られた楽器を使って演奏する「リサイクル・オーケストラ」。子供たちが世界に向けて奏でる音楽を通じて、現代社会が抱える問題を考える。
Optional Reading 1 未来を考える		Information Please 電話がまだ珍しかった時代。親切な電話交換手と筆者との間に生まれた心の交流を描く感動物語。
Unit 3 日本人と日本文化	Lesson 5	Katsushika Hokusai, a Japanese Genius 「過去1000年の最重要人物」のひとりとして挙げられる葛飾北斎。彼の芸術観と世界美術への影響を探る。
	Lesson 6	A Strange but True Superhero 生きるとは、真の正義とは何か。絵本「あんぱんまん」に込められたやなせたかし氏の人生の応援歌から考える。
Unit 4 科学技術	Lesson 7	What's an Ig? 「人々を笑わせ、考えさせる」研究に与えられる裏ノーベル賞。日本人受賞者の中からその真剣かつ痛快な研究内容を紹介し、科学に対する関心を喚起する。
	Lesson 8	The State-of-the-Art Origami Engineering 身近な地図から宇宙工学にまで応用された折り紙の技術。世界が注目する日本発の技術「ミウラ折り」に迫る。
Unit 5 現代社会	Lesson 9	Father of the Paralympic Games 「大事なのは残った機能を最大限に生かすこと。」パラリンピックを創設したグットマン医師の生涯と功績をたどり、スポーツを通じた社会参画について考える。
	Lesson 10	Save Washington Square Park! 公共の公園を守るために闘ったジャーナリストであり主婦であったジェイン・ジェイコブズ。彼女の運動や生き方を通じて、大都市とコミュニティーのあり方や社会形成について考える。
Optional Reading 2 未来を考える		Autumntime 本物の木が珍しくなってしまった近未来を描くSF的物語。どんぐりの実に託されたメッセージを探る。

2. 対照表

図書の内容・構成	学習指導要領の内容				箇所	配当時間
	第2款		第3款 1			
	(1)	(2)	使用場面	働き		
Lesson 1	ア・イ・ウ・エ	ア・イ・ウ	a, b, c,	a, b, c, d, e	pp.5-17	6
Lesson 2	ア・イ・ウ・エ	ア・イ・ウ	a, b, c,	a, b, c, d, e	pp.19-31	6
Lesson 3	ア・イ・ウ・エ	ア・イ・ウ	a, b, c	a, b, c, d, e	pp.33-45	6
Lesson 4	ア・イ・ウ・エ	ア・イ・ウ	a, b, c,	a, b, c, d, e	pp.47-59	6
Optional Reading 1	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	a, b, c,	a, b, c, d, e	pp.61-66	5
Lesson 5	ア・イ・ウ・エ	ア・イ・ウ	a, b, c,	a, b, c, d, e	pp.67-79	7
Lesson 6	ア・イ・ウ・エ	ア・イ・ウ	a, b, c,	a, b, c, d, e	pp.81-93	7
Lesson 7	ア・イ・ウ・エ	ア・イ・ウ	a, b, c,	a, b, c, d, e	pp.95-107	7
Lesson 8	ア・イ・ウ・エ	ア・イ・ウ	a, b, c,	a, b, c, d, e	pp.109-121	7
Lesson 9	ア・イ・ウ・エ	ア・イ・ウ	a, b, c,	a, b, c, d, e	pp.123-135	8
Lesson 10	ア・イ・ウ・エ	ア・イ・ウ	a, b, c,	a, b, c, d, e	pp.137-149	8
Optional Reading 2	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ			pp.153-158	5
合計						78時間
図書の内容・構成	第3款					
各 Lesson の 本文・Grammar・Word List・Phrase List	2 ア・イ・ウ					
各 Lesson , Optional Readingの本文	3 ア					
各 Lesson の Grammar , Communication Activity	3 イ					
全体の指示文, 各 Lesson の Warm-up, 脚注の Q, FQ, Did You Know, Comprehension, Exercises, Communication Activity	4					